

事業所名		児童デイ ベアービー			公表日		令和 8 年 3 月 22日	
		チェック項目	はい			工夫している点		課題や改善すべき点
			はい	いいえ	どちらでもない	はい	いいえ	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	80%	0%	20%	・時間帯を分けているため、利用人数に対してスペースが狭く感じることはない。 ・療育の玩具等が充実している。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	80%	0%	20%	・個々に合わせた課題を提供するため、基本的には個別療育を実施している。学び合いが奏功すると考えられる場合、SST(ソーシャルスキル遊び):他者との関係性の中で学び課題を実施。SSTは、2,3名で実施することがある。いずれもほぼマンツーマン体制を取っている。	・今後、特に、午後の時間帯に利用者増加が見込まれるので、それに伴う増員も検討していく。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	60%	20%	20%	・構造化の4要因のなかで、①スケジュールの構造化(ボードに表示して見直しを持たせる)②視覚的構造化(目で見て触って体験する教材の使用)③ワークシステム(課題を明確にして、自力で完了を目指す)の3要因については、療育に取り入れており、わかりやすい療育の展開に役立っている。 ・個別療育のスペースは、パーテーションで視界を遮るようにして個別の空間を確保している。 ・個別ブース、トランジットスペース、粗大運動など場所を分けて取り組んでいる。	④物理的構造化としては、個別課題実施時に、パーテーションで活動場所を区切って構造化しているが、注意集中困難な特性をもつ場合など、パーテーションの仕切りでは、充分といいがたい。間取り上、物理的構造化には限界があるが、個別療育の時間には、他のスペースのおもちゃが視界に入らないよう、工夫していきたい。	
	4	事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20%	20%	60%	・椅子や机の高さなどは子どもに応じて対応できている。 ・階段は一般家庭用なので、滑り止めをつける、子どもの階下に指導員がついて昇降するなど配慮している。		
	5	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。	80%	0%	20%	・清掃等のチェック項目を明確化し、毎日実施。 ・おもちゃなどの療育グッズは、必要に応じて、そのつど洗浄及び消毒を行っている。		
	6	子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	80%	0%	20%	・運動と机上課題は、フロアスペースを分けており、活動に合わせて調整できている。	・利用者が増えた際にも、ひとりひとりが充分活動できるような使い方を検討していきたい。	
	7	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	60%	40%	0%	・パーテーションで仕切られた個別の空間がある。個別の机上課題で使用するが、フリータイムにも使用が可能となっている。	・今後、同時間に利用児が増えた場合の割り振りは、個々へ配慮しつつ決めていく必要があろう。	
業務改善	8	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	40%	0%	60%	・個別支援計画を基に、療育のリーダーが療育の骨組みを決定、指導員はそれに沿って日々の療育を立案し実施する。評価は、担当指導員と療育のリーダーが共有した上で、定期的な次の療育の方向性を再立案の上、実行。これらを計画の見直しに反映させている。 ・対面で共有する事が難しい場合にも、全職員が電子化された実施記録を閲覧できるようになっている。更に、詳細を日案にメモ書きで残すなど、子どもに適切なレベルの療育が、段階的に実施されるよう工夫している。		
	9	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	60%	0%	40%	・回答を集計次第、業務改善を検討している。		
	10	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	80%	0%	20%	・日常の振り返りなどから意見を聴取り、順次、業務改善に努めている。		
	11	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	20%	20%	60%		・第三者評価といった外部評価を行う機関との繋がりをもてるよう検討していきたい。	
	12	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	80%	0%	20%	①障がいの基礎理解と療育の意義と目的について、各職員へ個別にレクチャー実施 ②子どもへの関わり方の研修会を実施し、さらに、個別にライブコーチングを行って、指導員の質的向上に努めている。 ③動画研修により、子どもへの対応方法を理論的に学ぶ機会を提供。 ④機関会員として日本LD学会に加入し、全職員が最新の研究に触れ、知見を広げられる機会を提供している。 以上、障がいの特性理解や療育スキルアップを個人の努力に任せず、事業所から積極的に発信、機会提供による人材育成に力を入れている。更に専門職に対しては、それぞれの職域の専門性を高めることができる研修を推奨している。	・引き続き、研修会への参加を促す。 ・今後は、事例検討カンファレンスなど定期的に研修実施できるとよい。 ・勤務日数が月1回に満たない非常勤職員に対しても、同様の研修の機会を確保することが難しいが、今後、取り組んでいきたい課題である。	
適切な支援の提供	13	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	0%	・支援プログラムの作成、公開をしている。	・引き続き行っていきたい。	
	14	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	100%	0%	0%	・利用前の面談で幅広くいいねに聞き取り、保護者のニーズを踏まえた上で、具体的な計画作成を心がけている。 ・その後、療育での様子を含む様々からのアセスメントにより、療育方針決定に至っている。 ・事業所内の観察、検査結果などのデーターによっても、子どもの特性理解に不足を感じた場合には、学校園へ向かい、担当保育士からの聞き取り及び対象児の行動観察を行うなど、徹底的に対象児理解をした上で、療育方針を定めている。	・適切なアセスメントに際しては、時間がかかるため、新規利用者に対しては、個別の支援計画を先に立てざるを得ないことも生じる。しかしその際は、保護者と共通認識を持ったうえで、出現している困り感軽減に繋がる支援を開始、その後、半年単位での見直しに反映させるよう努めている。	
	15	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	60%	0%	40%	・基本的には、日常的に職員間で検討を行っているが、出勤が少ない等の理由から対面会議が難しい場合にも、フォームを通して、意見を聞き取り、職員の意見や考えを取り入れることができるよう工夫している。		
	16	個別支援計画が職員間共有され、計画に沿った支援が行われているか。	40%	0%	60%	・個別の支援計画は、パソコン・スマホより閲覧可能である。 ・支援計画を日々の支援に落とし込むよう、支援骨子を立案しているの で、支援計画を具現化した支援が展開されている。	・個別支援計画の内容の周知を引き続き行っていく。	
	17	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	80%	0%	20%	・療育の効果は、【脳機能(パラナークス)】による客観的評価を参考にしている。子どもの取り組みの姿勢や理解しやすい指示方法など、インフォーマルなアセスメントは、日々の活動記録に記載している。	子どもの療育効果は、プログラムに加え、指導員の資質によるところが大きいことから、指導力向上のため、研究授業など実施を検討していければと思っている。	
	18	個別支援計画には、児童発達支援ガイドライン及び放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援(放課後等デイサービスの提供すべき支援)」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	80%	0%	20%	・客観的な判断が難しい目標を立てないようにしたりできるだけ面談や連携を行うことで、家族支援などを行うようにしている。 ・地域連携として、八尾市の子育て講座にて、子どもとの要項な関係性を築くコツについて講演を実施。	今後、支援の幅を広げられるよう、検討していきたい。	
	19	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	20%	0%	80%	・バリエーションを広げられるモデルプランをチームで検討し、その中で、担当者が選定できるような方向性を作っている。		
20	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	60%	0%	40%	・日々、プログラム検討、開発を行い、子どもの興味関心が失せないよう工夫している。	今後も、子どもがワクワクするプログラムを提供していきたい。		

関係機関や保護者との連携	21	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	0%	・個別活動として、認知機能アップ遊び、注意機能アップ遊びを中心とした机上課題、感覚統合遊びを実施。集団活動として、さまざまなルールある遊び（ソーシャルスキル遊び・SST）を行い、個別療育と集団療育がバランスよく実施できるよう配慮している。 ・個別の支援計画に加えて、短期目標を明確にし、プログラム立案しやすい工夫をしている。	・個別療育では、個々の特性に応じた課題が提供できるが、集団活動においても、すべての年齢の子どもにとって、意義ある楽しい活動となるよう、より工夫を重ねていきたい。
	22	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	60%	0%	40%	・できる限り実施。	
	23	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	40%	0%	60%	・対面の打ち合わせを基本としているが、口頭でシェアできない場合は、日案および活動記録に残して引継ぎ、次の療育立案に反映させ、療育が体系的に実施できるよう努めている。	
	24	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	80%	0%	20%	・実施内容に加えて、子どものようすや習得度を日案および活動記録に残して、次の支援プログラム立案の参考にしている。	
	25	定期的モニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	80%	0%	20%	・個別支援計画の期間で達成できる目標設定に努め、モニタリングに加えて客観的指標を用いて評価し、丁寧に見直しを行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議し、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	80%	0%	20%	子どもの状況を理解し、さらに、支援方針を理解した者が参加できている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	0%	・医療機関連携ケースでは、主治医の所見を画面にて伺って子どもの状態把握に努めたり、事業所からは、定期的に療育状況の報告を行っている。保育機関連携に関しても、園からの要請を受けたり、親のニーズを受けて連携を行っている。 現在、関係機関連携支援業務は、児童発達支援管理責任者と、療育を担当する心理専門職員で実施している。	・今後は、多様な関係機関連携が可能となるよう、体制を整えていきたい。
	28	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	80%	0%	20%	・これまで併行利用や移行に向けた支援を行うケースはないが、保育園・幼稚園との間で支援内容等の情報共有と相互理解に努めている。	・今後、併行利用や移行が生じた時には、継続的な支援が可能となるよう、できる限り関係機関との連携に努めていきたい。
	29	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	40%	0%	60%	・これまでに当該のケースはなかった。	・今後、スムーズに就学移行できるよう、できる限り関係機関との連携に努めていきたい。
	30	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	60%	20%	20%	・これまでは、児童発達支援センターとの連携は行っていない。	・今後は、連携していきたい。
	31	地域の他の子どもと活動する機会があるか。	20%	40%	40%	・今のところ実施していない	・子どもの特性も踏まえて、検討していきたい
保護者への説明等	32	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	0%	・日常的には、送迎時を利用して伝えようとしている。必要に応じて、面談も実施している。 ・その他、連絡帳やチャットを通して、保護者から様子伺ったり、連絡帳で報告しきれないことをお伝えして共通理解に努めている。	
	33	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	0%	・2025年度は、ペアレント・トレーニングとして、子どもと温かな関係を作る関わり方のコツを伝える講習会を実施。 ・親子の関係性改善のための個別プログラム「PCIT・親子相互交流療法」を必要に応じて順次実施している。	・保護者様に役立つ家族支援するためには、個々の子どもの特性に合わせた関わり方を考えて行く必要がある。そのため、家族支援は、個別面談及び、実践的に子どもとの関わり方を学んでいただくPCITなど、基本的には個別の対応が、家族支援として有益だと考えており、個別支援を充実させていきたい。
	34	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	80%	0%	20%	・特に利用者負担などを丁寧に伝え、必要に応じて運営規程の内容周知を心がけている。	・契約時に口頭にて説明の上、書面にてお伝えしているが、安全計画など、平時から意識していただきたいことは、連絡帳アプリ「コンベル」のお知らせ欄に掲載し、常に確認できるようにしていきたい。 ・資料は都度更新してアップデートしていきたい。
	35	個別支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	0%	・子どもの意思については、家族からの聞き取りや施設での活動の様子から推し量ったり、日々の言動は大切に拾い上げるようにしている。 ・家族の意向は初回の面談でいない聞き取り、日常的にもお声を聞くように努めている。	
	36	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	100%	0%	0%	・支援内容については、口頭及びメッセージなどの機能を使いながら説明に努め、さらに文書で示して、同意を得るように努めている。	
	37	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	0%	・送迎時やチャット連絡など、相談しやすい環境づくりに努め、ご家族に寄り添えるよう心がけている。必要に応じて、保護者面談を実施したり学校園と連携、各機関と家庭をコーディネートするなど、問題の改善に向けての支援まで心がけている。 ・個別の支援計画見直し時にも、保護者様からのお話を伺える時間を設けている。	
	38	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	60%	20%	20%	2025年度は、ペアレント・トレーニングとして、子どもと温かな関係を作る関わり方のコツをお伝えする講習会を実施した。	・利用者のニーズなどを踏まえながら進めていきたい。
	39	きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	80%	0%	20%	・きょうだい利用の利用者については、お互いに高め合えるような支援となるよう、配慮している。	・利用者とその兄弟への支援については、ニーズなどを踏まえながら進めていきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	0%	・保護者からの相談・申し入れを、記録に残して共有することで漏れなく、また、迅速に返信できるよう心がけている。適切に対応するために、調査や担当者からの詳細なコメントを要する場合にも、まずその旨伝えて、保護者様信頼を損なわないよう努めている。	・今後も迅速な対応を心がけていきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	0%	・HPにて、活動概要、主旨説明、イベントの告知を行っている。 ・Instagram、リタリコの事業所紹介サイトを通して、療育内容の紹介、イベントの様子を発信し、活動の理解促進に努めている。 ・利用者へは、連絡ツール「コンベル」を用いて、日々の活動報告、連絡事項の送信、情報発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	80%	0%	20%	・施設可能な書庫に保管し、厳重に管理している。 ・電子データに関しても厳重に管理、Web上では個人が特定できる情報は取り扱わないなど、取り扱いに留意している。	
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	0%	・齟齬（行き違い）を避けるため、口頭での確認に加えて、文書やメッセージなどでの確認を心がけている。		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	60%	20%	20%		・今後、地域に開かれた事業運営を検討していきたい	
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	60%	0%	40%	・すべて作成している。避難場所は契約時に書面も添えて伝えている。	・今後は、周知に努めたい。	
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	40%	20%	40%	・業務継続計画（BCP）を作成している	・今後は、周知に努めたい。	

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	0%	・初回の面談の際に確認している。	・今後、継続利用者に対しては、変更の有無について、定期的に確認をしていく。
	48	食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	80%	20%	0%	・アレルギーの有無を確認し、おやつ提供時には、最新の注意を払っている。	・現在、医師の指示書に基づいて対応が必要なケースはないが、今後、そのようなケースがあれば、遵守していきたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	60%	20%	20%	・安全計画を作成している。 ・必要に応じて、対策を講じつつ、改良に努めている。	・実践で使える安全管理となるよう、周知に努めたい。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	60%	20%	20%	・契約時に災害時の流れなどの説明はしている。	・[避難経路]や[避難場所]など、平時から意識していただきたいことは、連絡帳アプリ「コノベル」のお知らせ欄に掲載し、常に確認できるようにしていきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	80%	0%	20%	・小さな出来事に対しても、ヒヤリハット報告書を作成。発生状況、問題点、改善可能性を検討し、職員間で共有している。	・今後も、ヒヤリハット事案の共有、安全に対する意識づけに努めたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	0%	・虐待防止研修を実施している。 ・身体拘束など子どもの人権に配慮した対応ができるよう、対応が難しいケースはチームで検討するなど、一貫性を持った対応となるよう努めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	80%	0%	20%	・これまで、身体拘束を要するケースはない。	・個別支援計画への記載はないが、必要があれば手続きに沿って進める。